小林純教授記念号に寄せて

小林純先生は長年にわたり，立教大学経済学部の教育・研究の向上と発展に尽力されてきました。その小林純先生の功績を讃えて，本記念号を発刊できることは，経済学部にとって大変に名誉なことです。

小林純先生は1973年３月に東京都立大学経済学部を卒業され，同年４月に立教大学大学院経済学研究科に入学されました。その後，博士課程在学中の1976年から１年間，西ドイツのテュービンゲン大学に留学され，さらに1979年４月からの３年間を経済学部助手として本学に勤務されました。その後，先生は1982年に高千穂商科大学商学部の専任講師に就任され，同大学で８年間教鞭をとられた後，1990年に本学経済学部経済学科助教授として迎えられました。2000年には教授に就任され，2016年３月に定年退職されるまで26年間，助手としての勤務を含めると29年間の長きにわたって経済学部の研究・教育ならびに立教大学の発展に貢献されました。

小林純先生は本学経済学部において，主に社会思想史，経済史，基礎ゼミナール等を，大学院においては社会思想史特論を担当されました。経済学を学ぶに際して，社会思想史は社会科学の知的体系を知るための重要な学問分野であり，先生は幅広い教養と学識を通じて学生の知的興味を喚起する魅力的な授業を展開されました。さらに初年次教育の充実にも尽力され，「経済史」のローテーション化や基礎ゼミナールの共通教材の作成などに大きく寄与されました。先生は，こうした経済学部教育の充実のみならず，立教大学が建学以来の教育理念として掲げるリベラル・アーツの発展にも大きく貢献されました。2002年に就任したランゲージセンター長に引き続き，先生は2004年から本学のリベラル・アーツ教育の主体である全学共通カリキュラム運営センターの言語部会長に就任し，全カリ言語教育の統括責任者として本学の言語教育の充実と発展に大きく貢献されました。また，先生ご自身が全学共通カリキュラムのゼミナールを長くご担当になり，学部や学年を超えて学生相互が少人数で切磋琢磨する教育プログラムの確立・定着にも尽力されました。さらに先生は立教大学のみならず，横浜国立大学，横浜市立大学，東京都立大学，福島大学等の大学で兼任講師を務められ，学外においても旺盛な教育活動を通じて学内外の多くの学生の育成に力を尽くされました。

小林純先生の活躍の場はこうした教育活動だけではありません。先生は2007年に経済学部長に就任すると，学部カリキュラムの拡充や研究教育環境の改善・整備に大きな指導力を発揮し，経済学部の充実に力を尽くされました。また，全学では2007年～2010年の立教学院評議員，

2009年～2012年の人権・ハラスメント対策センター副センター長，2013年～2015年の日本語教育センター副センター長など多数の重責を担われ，全学の教育研究体制の充実にも先生は大きく貢献されています。

また，研究においても小林純先生は大きな足跡を残されました。先生のご研究は，本学経済学部の住谷一彦名誉教授によるマックス・ヴェーバー研究の衣鉢を継ぐ形で開始されたと言って良いでしょうが，先生の研究は，一貫してマックス・ヴェーバーおよびドイツ歴史学派に属する経済学者の思想像の実証的・整合的把握を企図して進められました。その最初の成果として1990年に『マックス・ウェーバーの政治と経済』（白桃書房）を上梓され，その後も2010年に『ウェーバー経済社会学への接近』（日本経済評論社），2012年に『ドイツ経済思想史論集Ⅰ』および『ドイツ経済思想史論集Ⅱ』（唯学書房），2015年には『マックス・ヴェーバー講義』（唯学書房）および『ドイツ経済思想史論集Ⅲ』（唯学書房）など多数の著書を公刊されています。これら以外にも共著書や論文などは枚挙に暇ありません。これら先生のヴェーバー研究の成果は，その論理の精緻さと実証密度において日本のヴェーバー研究の水準を一気に引き上げる画期的なものと評価されています。また，近年の先生は20世紀思想史，特にオットー・ノイラートへと関心を拡大され，激動する社会状況の中での社会科学的な知の在り方そのものを問い直す方向へと研究を深められています。また，先生は経済学史学会，政治経済学・経済史学会，社会経済史学会，ドイツ資本主義研究会などの学会でも各種委員に就任され，学界の発展にも大きく貢献されてきました。

小林純先生は経済学部教授会等において，そのユニークな視点から多岐にわたって様々な問題提起や提言をなされました。先生のご退職により，歴史部会や教授会の場で，先生のそうした名言を拝聴する機会が無くなったことに一抹の寂しさを感じますが，先生の豊かな学識や研究・教育に対する真摯な姿勢は，これからの立教大学および経済学部を担う私たち全員が深く胸に刻み継承していかなければならないものと思います。

小林純先生がこれからもご健勝でますますご活躍されることを祈念して，本記念号の発刊の辞に代えさせていただきます。

2016年11月

経済学部長　須永　徳武